

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況（内規第 11 条 活動報告）

団体名	和	インターアカデミー パートナーシップ
	英	InterAcademy Partnership (略称 IAP)
	団体 HP (URL)	http://www.interacademies.org (日本学術会議が加盟していることの記載 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)	<p><b>InterAcademy Partnership (IAP)</b> は、2016 年 3 月に国際的な分野別アカデミーの <b>IAP : the global network of science academies (IAP)</b>、<b>InterAcademy Council (IAC)</b> 及び <b>InterAcademy Medical Panel (IAMP)</b> の 3 団体が緩やかに統合して正式に設立された。</p> <p>各団体はそれぞれ <b>IAP for Science (旧 IAP)</b>、<b>IAP for Policy (旧 IAC)</b>、<b>IAP for Health (旧 IAMP)</b> に名称変更され、現在 140 以上の国・地域アカデミー等が加盟している。</p> <p>新 <b>IAP</b> の目的は、自然科学、社会科学、工学及び医学の科学者ネットワークをつなぎ合わせることにより、政策提言、科学教育の振興、保健衛生の向上及び <b>SDGs</b> に代表される重要な開発計画を推進していくことである。</p> <p>日本学術会議は、<b>IAP for Science</b> 及び <b>IAP for Policy</b> に加盟している。</p> <p>2019 年より定款改正の審議が行われ、2021 年 8 月に加盟国によって承認された。2022 年総会では、3 団体の正式な統合が予定されている。定款改正後は、日本学術会議も自動的に新組織（旧 <b>IAP for Health</b> の活動含む）の加盟アカデミーとなる。</p>	
当該国際学術団体の対応する分野の学術の進歩に貢献した事例	<p>エビデンスに基づいた政策提言が行われるよう、継続的な活動を行っている。国連を始めとする国際機関のプロジェクト等とも連動して科学の促進活動と政策立案者等のコラボレーションを推進する。</p> <p>また、傘下の地域組織（アジア・太平洋は <b>AASSA</b>）のネットワークと協力することによって各地域の代表性を高め、地域ごとの課題を包括的に拾い上げるとともに、<b>International Science Council</b>（国際学術会議）とも連携し全世界的な取組みにおいても協働する。</p> <p>新型コロナウイルスへの対応のような重要な課題については、専門家の地理的な偏りをカバーする国際的な助言グループを立ち上げて活動するなど、科学者が世界の重要な課題の解決に貢献する機会の強化を可能にしている。</p>	
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について	<p><b>IAP</b> は世界の科学アカデミーが参画するフォーラムとして、世界規模の課題に取り組んでいる。「<b>InterAcademy Partnership Strategic Plan</b>」における 2019 年から 2021 年の主な戦略目標は以下のとおり。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国アカデミー及びそのメンバーの能力向上、地域ネットワークの強化</li> <li>・独立した、質の高い、証拠に基づいた地球規模の科学的助言ができる機関としての地位の確立</li> <li>・研究、教育、リテラシーにおける科学の重要性の促進</li> <li>・進歩的かつよりレジリエントな国際的なアカデミーネットワークとしてのIAPの構築</li> </ul> <p>これらの戦略の下に多様な国際活動が展開されており、2020年の主なグローバル活動としては、「海賊学術雑誌および会議の撲滅」のためのワーキンググループにおいて、<b>Predatory Journal/Conference</b>と呼ばれる問題の現状と影響について国際的調査が行われ、原因及び課題に対するアクションが提案された。また、地域間の協力プロジェクト「気候変動と健康」では、気候変動に対する適応・緩和戦略、健康に対する効果があるものに着目し、2022年まで継続される予定。</p> <p>今後も、各種プログラムに対し、IAPのネットワークを基にして、専門委員会の立ち上げを行い活動する。例えばIAP for Researchでは、研究成果の判断基準について、論文引用件数に依存しない評価手法を検証する作業委員会を2019年に立ち上げ、Institute for Advanced Study (IAS)及びCarnegie Corporation of New York (CCNY)の助成を受けた調査研究が実施されている。</p>
<p>日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて</p>	<p><b>-IAP for Science</b> 2017 年公表「Statement on Science and Technology for Disaster Risk Reduction」共同声明策定にあたり、春山成子日本学術会議連携会員がワーキンググループ議長を務めた。</p> <p><b>-IAP for Health</b> 2019 年公表の「A call for action to declare trauma as a disease」共同声明に対し、山中龍宏連携会員がワーキンググループに委員として参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症への対応を目的とするアドホックな助言委員会に秋葉澄伯第二部会員が参加。</li> <li>・IAP コミュニケ「ポストコロナの世界的なグリーンリカバリー：科学的助言による社会的公正、プラネタリーヘルス、人間の健康、および経済的ベネフィットの確保（仮訳）」の和訳を作成し、日本学術会議 HP 等で発信。</li> <li>・日本学術会議の COVID-19 関連ポータルサイト（2020 年 9 月末に閉鎖）で取りまとめた日本の COVID-19 の対応状況を、IAP の HP を通じて英語で共有。</li> </ul> <p>2020 年度以降、以下のワーキンググループ等へ委員の推薦／派遣を実施。</p> <p>2020 年 4 月～ UNESCO オープンサイエンス調査への協力</p>

	<p>(村山泰啓連携会員)</p> <p>2020年5月～ IAP 共同声明「Protection of Marine Environments」ワーキンググループ (白山義久連携会員)</p> <p>2020年6月～ IAP 共同声明「Urbanization in LMICs」ワーキンググループ (小野悠連携会員)</p> <p>2020年7月～ IAP 共同声明「Regenerative Medicine」ワーキンググループ (阿久津英憲連携会員)</p> <p>2020年12月～ SHEM Committee (郡山千早連携会員)</p> <p>IAP 等の共同プロジェクト。各国からのレポート査読への協力</p> <p>2021年2月～ IAP 共同声明「Biodiversity and Climate Change」ワーキンググループ (橋本禅連会会員)</p>
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて	<p>IAP は、3組織の統合により、国際社会で大きな位置を占める世界規模の国際学術機関である。日本学術会議が日本の科学者を代表して加盟することにより、統合以前から理事として組織運営に多く携わってきた実績を基に、自然科学・社会科学の枠を超えた幅広い学術分野に対応できるアカデミーとして、中心的に活動することができる。また、IAP は「政策のための科学」を一つの使命として地球規模の諸課題に対し、3組織それぞれの特徴を生かした活動を行っており、多数の共同声明の発出等の政策提言を行っている。ISC に加盟していない開発途上国アカデミーも活発に活動する IAP に積極的に関与することで、日本学術会議がより包括的に、日本の科学者の見解を国際的政策形成に適切に寄与・反映することができる。とともに、世界の科学・学術分野の趨勢を直接把握し、国内の学術関係機関に情報提供をすることができる。</p>
その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など)	<p>若手研究者育成については、IAP は Global Young Academy に対し、2010年の設立時から支援しており、例えば各国若手アカデミー会合や GYA 総会に対し資金提供している。また、女性研究者育成については、地域ネットワークを通じた活動を行っており、例えば「Women in Science」を出版し、女性科学者を紹介し、ロールモデルの提供を行っている。</p>

## 2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)	未定
日本人の役員立候補等の予定について	<p>-IAP for Science :理事 (2016～2019) (三選不可のため、次回の役員立候補予定なし。)</p> <p>-IAP for Policy (旧 IAP for Research) :現理事(2017～2022)</p> <p>※定款改正に向け、任期が2年延長 (2020年⇒2022年)。</p> <p>・2020年～ (※) COVID-19 Advisory Group 委員 ※任期未定</p>
現在、検討中の日本からの提	未定

言や推進するプロジェクト等の動きについて	
----------------------	--

### 3 国際学術団体会議開催状況（内規第 11 条 活動報告）

総会・理事会・各種委員会等の状況	総会開催状況	2013 年（開催地：ブラジル）、2016 年（開催地：南アフリカ）、2019 年（開催地：韓国）、2022 年（開催地：アメリカ）
	理事会・役員会等開催状況	IAP for Science (IAP for Health:2017, 2018 同地開催) 理事会 2016 年（開催地：中国）、2017 年（開催地：ドイツ）、2018 年（開催地：スイス）、2019 年（開催地：韓国）  IAP for Policy (旧 IAP for Research) 理事会 2017 年（開催地：ドイツ）、2018 年（開催地：英国）、2019 年（開催地：韓国）、2020 年（新型コロナウイルスの影響により 4 半期に 1 回のオンライン開催）、2021 年（オンライン開催）  IAP ジョイント・ミーティング 2020 年（オンライン開催）※新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催へ変更、2021 年（オンライン開催）
	各種委員会開催状況	2020 年に活動した主な委員会等（開催：主にオンライン） -IAP COVID-19 専門家グループ -IAP バイオセキュリティワーキンググループ -UNESCO オープンサイエンス助言のための臨時ワーキンググループ -海賊学術雑誌および会議の撲滅のためのワーキンググループ -科学教育プログラム国際委員会・ワーキンググループ
	研究集会・会議等開催状況	2019 年： -科学とSDGs—アカデミーの役割(2019年4月、総会と同時開催) 2020 年： 地域ネットワークや各アカデミー等と会議共催および開催支援
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	-IAP ジョイント・ミーティング 2021 年 10 月（高村ゆかり副会長） -IAP for Policy (旧 IAP for Research) 理事会 2020 年 11 月、2021 年 3 月、6 月（高村ゆかり副会長） -IAP for Policy (旧 IAP for Research) 理事会 2020 年 7 月（武内和彦副会長） -IAP ジョイント・ミーティング 2020 年 4 月（武内和彦副会長）	

	-IAP 総会 2019年4月 (武内和彦副会長、他連携会員1名) -IAP 総会 2016年3月 (大西隆会長、花木啓祐副会長) -IAP for Science 理事会 2018年9月 (武内和彦副会長) -IAP for research 理事会 2019年4月 (武内和彦副会長) -IAP for research 理事会 2018年2月 (武内和彦副会長) -IAP for research 理事会 2017年9月 (大西隆会長)			
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
	IAP-P (旧 IAP-R) 理事 ※日本学術会議会長充て職	2020～2022	梶田隆章	(25期) <input type="checkbox"/> 会員・ <input type="checkbox"/> 連携
	IAP-P (旧 IAP-R) 理事 ※日本学術会議会長充て職	2017～2020	山極壽一	(24期) <input type="checkbox"/> 会員・ <input type="checkbox"/> 連携
	IAP-S 理事 ※日本学術会議会長充て職	2016～2019	山極壽一	(24期) <input type="checkbox"/> 会員・ <input type="checkbox"/> 連携
出版物	1 定期的 (年1回) 主な出版物名 年次報告書  2 不定期 (2020) 主な出版物名 ※タイトル仮訳 「COVID-19 ワクチンの公衆衛生的ポテンシャルの達成」 「科学技術におけるリスクとベネフィットの評価：質的フレームワークの可能性」 「COVID-19 に関する IAP コミュニケ」 「UNESCO オープンサイエンス助言に対する IAP の意見」 「構造的人種主義と差別の撲滅に関する IAP コミュニケ」 「COVID-19 後のグローバル・グリーンリカバリーに関するコミュニケ」 他			
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 ( <a href="https://www.interacademies.org/news/iap-announces-publication-its-2020-annual-report">https://www.interacademies.org/news/iap-announces-publication-its-2020-annual-report</a> )				



	<p>10 ヲ国を越える各国代表会員が加入している</p> <p>1. 該当する      2. 該当しない</p>
	<p>( 106 ヲ国)</p> <p>・ 各国代表会員名 / 国名</p> <p>US National Academy of Sciences (NAS) /United States</p> <p>The Royal Society /United Kingdom</p> <p>Académie des Sciences, Institut de France /France</p> <p>German National Academy of Sciences Leopoldina/Germany</p> <p>Accademia Nazionale dei Lincei /Italy</p> <p>Royal Society of Canada/Canada</p> <p>Russian Academy of Medical Sciences /Russia</p> <p>Australian Academy of Science/Australia</p> <p>Chinese Academy of Sciences/China</p> <p>Korean Academy of Science and Technology (KAST) /South Korea</p>

加入国数及び  
主要な各国代  
表会員を  
10 記載